連の和（つらのわ）

第24号（平成23年３月１日発行）
連島中学校区人権学習推進委員会
事務局　倉敷市連島公民館
☎ 086－448－0655
e-mail:ph-tsurajima@kurashiki-oky.ed.jp

表紙の写真　いもづるであそぶ園児たち　連島東幼稚園

いもほりをした後、
みんなでさつまいものつるを使って
遊びました。
いもづるで“長なわとび”にも
挑戦しました。

思いやり　みんなでつくろう　明るい未来

人権標語

ともだちは
ぼくとわたしの　たからもの
連島神亀小学校　一年　みやけ　もえか

「どうしたの」
やさしいことばで　ささえあい
連島神亀小学校　二年　やなぎさわ　はるほ

ともだちと
みんなでもとう　おもいやり
連島神亀小学校　三年　塩津　彰大

やさしさで
みんな笑顔の　毎日を
連島神亀小学校　六年　茶木　詩央里

みんなはね
なかよしだもの　にっこにっこ
連島西浦小学校　一年　きよおか　みさと

またあした
そのひとことが　うれしいな
連島西浦小学校　二年　やべ　りな

こまっても
一人じゃないよ　だいじょうぶ
連島西浦小学校　二年　く山　まなか

いいとこは
ひとりひとりに　あるんだよ
連島西浦小学校　五年　小山　隼

人権ポスター

連島東小学校　５年
日並　萌香

連島東小学校　５年
高月　楓

連島東小学校　２年
大治　弥生

連島中学校　１年
奥山奈々絵

連島東小学校　６年
山下　荘子

連島東小学校　６年
岩永　莉奈

連島中学校　２年
遠藤　早紀

連島中学校　１年
松山　奈緒

連島中学校　１年
三宅　璃海

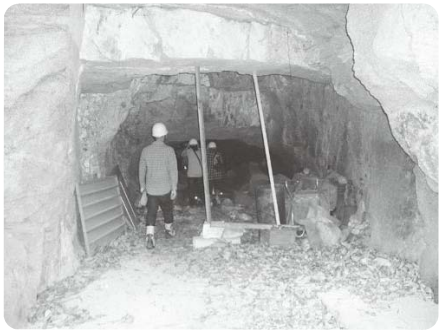
体験学習

都羅の小径「歴史探訪」

平成22年9月25日㈯ 実施

亀島地下工場を見学して

連島西浦小６年　三宅　那直



毎日のように、教室から見ている亀島山の中に、長いトンネルがあって、戦争中に地下工場があった。知らなかった。

この土地で、実際に戦争があったからこそ地下に工場を作らなければならなかった。そして、私は、そのトンネルの中に入った。実際には戦争を知らないけど、少し戦争を感じることができた。

トンネルの中は、暗くてこわかったけど、そんな歴史と今の私達のくらしはつながっている。

亀島山の上から水島の町並みを見た時、景色はちがうけれど、むかしの人もここから下をながめただろうと思った。

都羅の小径「歴史探訪」に行って

連島西浦小６年　瀬戸口　美澪

私は９月25日に都羅の小径「歴史探訪」に行った。今年は亀島の地下工場跡に行った。戦争中空しゅうをさけるため地下に造られたそうだ。中は真っ暗で懐中電灯を消すと、となりの人のりんかくも見えないほどだった。

当時の人はこんな真っ暗な所でちいさな電球の明かりだけで働いていたそうだ。私達とあまりかわらないくらいの年の人も働いていたと聞いてびっくりした。

入る前、中の物にさわったり持って帰ったりしないように言われた。この地下工場を戦争遺跡として保存しようとしているからだ。でも中にはあきらかに当時の物ではなさそうな物もたくさんころがっていた。勝手に入ってゴミを捨てていく人がいるそうだ。ひどい人がいるんだなぁと思った。豚が飼われていたこともあったそうで骨がたくさん落ちていてびっくりした。これからの時代は、実さいに戦争を経験した人がどんどん減っていく。このような場所を戦争遺跡として大切に保存して語りついでいかなければいけないと思った。

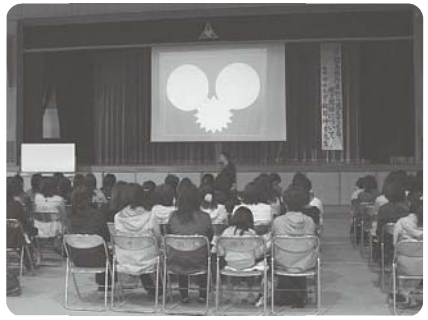
学校だより

連島東小学校

○「見廻組」の方との交流

連島東小学校では，「見廻組」という地域の方々による学区パトロール活動があります。毎月第二週の火曜日に，児童の下校に合わせて通学路を歩き，学区内を見廻ってくださっています。先日は，不審者が学校に入ってきたという設定での避難訓練を行いました。その時も見廻組の方々が参加してくださり，下校中に不審者に出会った時は，大人の人に助けを求める訓練も行いました。児童にとって，地域の方々に見守られていることは，大きな安心につながっていると思います。児童会として，見廻組の方へのお礼の会を計画し，手紙やいろいろな手作りの品物を贈る予定にしています。児童が地域の方と交流を続けていくことは温かい心のふれあいを広げていくよい経験だと考えられます。これからも，引き続き交流していきたいと思います。

人権講演会



連島中学校人権教育講演会

日時　平成22年11月13日㈯
演題　思春期外来から見えてくる親子関係について
講師　岡山大学　岡部　伸幸 先生

感想

○思春期は第二の出産なのだとあらためて思いました。日々悩む中で過ごしています。子どもとの時間をつくっていきたいと思います。

○「心が生まれるとき」というのが，すごくよくわかるように思いました。子どもに対してどうしたらよいか悩むこともありましたが，今までとは少し違う対応ができそうな気がします。

○発達障がいの子どもたちに関わる仕事をしているので，とても勉強になりました。親が障がいを認めるか認めないかで，同じ障がいでもずいぶん差があります。病院へ連れて行ってもらえず，普通学級で苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。どのように支援するべきか研修する機会があればと思いました。

第２回倉敷市連島公民館　人権教育講演会

日時　平成22年10月14日㈭
演題　あなたらしさを行動に
　　～あなたのやさしさが笑顔をつくる～
講師　岡山大学特任教授　妹尾　一道 先生

感想

障がいのある息子さん達の自立支援を縁に多くのボランティアの皆さんとの交流を通して、遠方の患者さんの診察券を病院に届けるなど頼む側頼まれる側の両者共に肩のこらないボランティアの実践例の紹介。

障がいを持つ子どもの保護者に「自分より先に子どもに亡くなってほしい。」と願う人もいる。「自分が先に亡くなっても生きていけるように育てよう！」という考え方ができないのか・・・。「障がい者」ではなく“チャレンジャー”だということ。決して「障がい」という言葉では片付けてはならないこと。障がい者→“チャレンジャー”と認識される世の中にしたい、そういった保護者の立場からの考え方や発想を実体験も交えながら、心温まるお話をしてくださいました。

また、今年の夏に倉敷市と姉妹都市のサンクトペルテン市に障がい者のスポーツ大会に招かれて行ったその道中記を交えて外国の大会運営や外国のボランティアに対する感想を、あまりの多さ、年齢層の広さに驚いたこと、画像を交えながら紹介し、一番の違いは「みんな楽しみながら」することで、出来る範囲で少しずつが長くできる秘訣。